

科目名称：	色彩学（美術学科）	
担当者名：	鳴海 智子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2
授業の目的・テーマ		
主に色彩士検定3級を受験するために必要な知識を習得します。職場や生活において色の選択は日常的に行われるため、色の力を利用してコミュニケーションを円滑にする方法やインテリアやファッションなど用途に応じた 基礎的な配色法も学びます。		
授業の達成目標・到達目標		
カラーマスター色彩士検定3級テキストに沿って演習課題に取り組み色彩の基本を習得する。色彩に対する興味や探究心を育て、生活や仕事の実践で役立つ配色法を習得する。授業ごとに受験対策過去問題集の解説をして理解を深め、自主学習の意欲を高める。		

美術学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP (1)	建学の精神と設立の理念を基に、主に基礎教育科目により、基礎知識を修め幅広い教養を身につけ、多様な文化や考えに対応できる。	
DP (2)	主に専門科目により、美術に関する理解を深め豊かな表現力を身につけ、社会の一員として貢献できる実践力を身につけている。	○
DP (3)	多様な社会に対応できるように、自己表現を深化させながらも他者の意見を尊重し、様々な表現を受け入れる豊かな人間性をもっている。	
DP (4)	様々な課題に取り組み、応用力と創造力を身につけて、その中から自己の個性を磨き表現できる。	

評価方法/ディプロマポリシー	定期試験	模擬試験 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
美術DP (1)					0
美術DP (2)	0	30	50	20	100
美術DP (3)					0
美術DP (4)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
なし	《内容1》	《経験年数1》
	《内容2》	《経験年数2》
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》

備考
色彩士検定試験を受験するための授業なので、定期試験は行わず確認テストや検定試験対策授業で行う模擬試験などで対応します。

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
色彩士検定試験3級の試験に合格するための知識の習得	授業後に理解したことをまとめ單元ごとの過去問題に積極的に取り組み更に理解を深める。解らないところがあれば質問する。	授業後に理解したことをまとめ單元ごとの過去問題に取り組み更に理解を深める。	授業後に理解したことをまとめ單元ごとの過去問題を1回はやってみる。	授業で解ったことをまとめられない。過去問題を自主的にはやらない。
色彩基本課題1～4	文字が読みやすく文章も簡潔に分かりやすく丁寧に仕上げている。	わりと丁寧に仕上げている。	少し雑だが一応基本を理解して仕上げている。	課題1～4のいずれか未完成。
色彩応用課題5	色彩構成にセンスや個性が光り文章も分かりやすくまとめられ、全体のレイアウトも美しく仕上がっている。	努力が感じられ真面目に取り組み丁寧に仕上げている。	色彩構成に余白があり仕上げが雑であるが一応出来ている。	色彩構成を中途半端にして提出している。

授業の内容・計画	事前事後学修の内容	事前事後学修時間(分)
第1回 色彩学を学ぶ意義・色の歴史 演習課題1:「Color 自己分析」	教科書1章 いろのなりたち を読んでおく。	20分
第2回 第1章 色のなりたち - 物体の色 演習課題1:「Color 自己分析」	授業内で解いた過去問題集の文章を教科書で見直しラインをひく。	30分
第3回 第1章 色のなりたち - 目の構造と視細胞 演習課題2:「PCCS 色相環」	1章で学んだことをノートにまとめる。	30分
第4回 第2章 混色 - 加法混色 演習課題2:「PCCS 色相環」	授業内で解いた過去問題集の文章を教科書で見直しラインをひく。	30分
第5回 第2章 混色 - 減法混色 演習課題2:「PCCS 色相環」	2章で学んだ加法・減法混色の違いをノートにまとめ理解する。	30分
第6回 第3章 色の表示方法 - 色の三属性 演習課題3:「PCCS 等色相面」	授業内で解いた過去問題集の文章を教科書で見直しラインをひく。	30分
第7回 第3章 色の表示方法 - ヒュートーンシステム 演習課題3:「PCCS 等色相面」	3章で学んだヒュートーンシステム等をノートにまとめ理解する。	30分
第8回 第4章 色の知覚的效果 - 色の対比・同化 演習課題3:「PCCS 等色相面」	授業内で解いた過去問題集の文章を教科書で見直しラインをひく。	30分
第9回 第4章 色の知覚的效果 - 感覚に及ぼす色の効果 演習課題4:「トーン:色調のイメージをつかむ」	4章で学んだトーン:色調のイメージをノートにまとめ理解する。	30分
第10回 第5章 色の心理的效果 - 色の象徴性 演習課題4:「トーン:色調のイメージをつかむ」	授業内で解いた過去問題集の文章を教科書で見直しラインをひく。	30分
第11回 第5章 色の心理的效果 - 色の習慣 演習課題4:「トーン:色調のイメージをつかむ」	課題5、色彩構成しやすい熟語を探す。色彩構成のためのアイデアスケッチを描く。	30分
第12回 第6章 色彩調和 - 色相を基準にした配色 検定対策 演習問題 1・2・3	授業内で解いた過去問題集の文章を教科書で見直しラインをひく。	30分
第13回 第6章 色彩調和 - トーンを基準にした配色 検定対策 演習問題 4・5・6	教科書の見直し、プリントの間違い箇所を復習する。課題5セント紙に色彩表現する。	30分
第14回 第6章 色彩調和 - 基本的な配色技法 検定対策 演習問題 7・8	6章で学んだ基本的配色法をノートにまとめ理解する。	30分
第15回 総括・色彩士検定 理論問題確認テスト	理論問題の間違った箇所を見直し理解する。課題1・2・3・4の仕上げに取り組む	50分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事後学修としては、授業中に実施した確認テストを復習しまとめておく。		
成績評価の方法・基準		
定期試験は、実施しない。その他の評価配分は、以下のとおりである。 A4ファイルタイトル課題10% 授業後のまとめ・感想ノート30% 課題1～4:色彩基礎演習課題60%		
課題に対してのフィードバック		
課題ファイル提出後に改善点、問題点があればコメントする。		
教科書・参考書		
教科書: Color Master BASIC (NPO法人 アデック出版局)、配色カード199a、色彩士検定3級受験対策 過去問題Vol.3		